

島根県立大学・島根県立大学短期大学部

松江キャンパス

令和 5(2023)年度FD報告書

1. FD 学内研修会の実施報告 p.2-3
2. 授業評価アンケートの実施結果
 - 2-(1)人間文化学部 p.4-8
 - 2-(2)短期大学部 p.9-13
3. 松江キャンパス独自の取り組み p.14
4. 松江キャンパス FD 委員会の今後の課題 p. 14-15
5. FD 委員会年間スケジュール p.16

令和 6 年 3 月 31 日
松江キャンパス FD 委員会

1. FD 学内研修会の実施報告

(1)令和5年度第1回 FD 研修会

演 題: 「科研費申請に関する研修会」

日 時: 令和 5(2023)年 7 月 12 日(水) 松江キャンパス会議終了後～(30 分程度)

場 所: 松江キャンパス大講義室

方 法: 対面による研修会

講 師: 松江キャンパス FD 委員長 保育教育学科 小山優子教授

内 容: 近年の科学研究費の採択動向と科学研究費獲得のためのノウハウを知る

概 要:

大学や大学教員にとって、科学研究費の獲得は職務上等の使命であるが、島根県立大学・短期大学部松江キャンパスの科学研究費の申請率は他キャンパスに比べて低いのが現状である。令和 5 年度に公立大学協会から「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会」の案内があり、FD 委員長が本研修会に参加した。研修会は、令和 5 年 6 月 9 日(金)13 時 30 分～15 時に、ロバスト・ジャパン株式会社代表取締役の中安豪講師により、「科研費申請の最新動向 採択をつかむためのポイント解説!」と題して Zoom オンライン研修の形で実施された。この研修会后、副学長からの要請により、令和 5 年 7 月 12 日(水)の松江キャンパス会議終了後、引き続き科研費申請の動向と要点を松江キャンパス教員に対面での FD 研修会を実施した。

参加者: 研修会は、松江キャンパス教職員 43 名が出席した。

評価と課題:

科研費の動向については、研究種目や公募締切が変更になったことなどによる公募採択の難易度が変化していること、コロナによって以前と変わらず申請する教員と申請を控える教員とに二極化している傾向や、若手研究の申請が以前より応募条件が厳しくなっている動向なども紹介した。また、科研費採択の評価ポイントを踏まえた研究計画調書の作成方法についての具体的なノウハウなどを研修会で説明した。本研修会を踏まえ、本学科科研費申請窓口の管理課齋藤伸朗専門員からも科研費申請の際の注意点を投げかけるなど、教職員協働で科研費申請を促した。

課題については、松江キャンパスでの科研費申請率が低い原因が、学生への教育や学内業務の多忙さから、科研費申請とその実務に労力がかけられない教員が多いことや、科研費申請から遠ざかっている教員には申請のハードルが高いことなどが挙げられるが、定期的に科研費に関する研修会を実施し、科研費申請に挑戦する機運を松江キャンパス内で高めていきたい。

(2)令和 5 年度第 2 回 FD 研修会

日 時: 令和 5(2023)年 7 月 12 日(水) 13:10～14:40

演 題: 「生成 AI の現状と課題」

方 法: オンライン(Zoom にて開催) 松江キャンパスより 3 キャンパスに発信

講 師：松江キャンパス 文化情報学科 倉橋徹准教授

概 要：

AIの歴史、生成AIのしくみ、生成AIの種類、ChatGPTの使い方、世間の動向、最新情報、学生アンケートの結果、生成AIの課題、の8項目について説明を受けた。2022年に生成AIが一般公開されて以降、生成AIを使用したサービスは拡大の一途をたどっている。AIブームの理由としては、深層学習の進化やマシン性能の向上などの技術的な部分と、オープンソースソフトウェアのライブラリの充実がある。ChatGPT(OpenAI)ブームの理由には、Microsoftの巨額投資やAPIの公開、無料版・有料版の差別化がある。2023年7月現在、文書生成AIは6種類、画像生成AIは5種類のサービスが展開されている。ChatGPTの注意点として、個人情報、機密情報は入力しないこと、ChatGPTの回答が嘘である可能性は仕組み上避けられないため、ファクトチェックは必須であることなどの説明があった。また、計算が不得意であることや、学習データセットの古さなどの注意点も挙げられた。学生へのアンケート結果として、ChatGPTにポジティブな印象をもつ学生が多いことが示された。最後に、学生が利用した場合の課題や教員の利活用方法について説明があった。

参加者：3キャンパス総計 85名(松江キャンパス 35名、出雲キャンパス 36名、浜田キャンパス 14名)(教員および事務職員)

評価と課題：

生成AIについて、その仕組みから使い方、最新の動向について幅広く紹介され、今回の研修では、生成AIの基礎知識を得ることができた。今後の課題は、学生が使用した場合の対応や教員の利活用についてなど、実践的な内容についての知識を深めることである。

(3)他の委員会とFD委員会の共催研修会(障がい学生支援委員会との共催研修会)

演 題：「障がい学生の支援について」

日 時：令和6(2024)年3月19日～3月31日まで

方 法：オンデマンド配信

講 師：西村健一教授(障がい学生支援委員会委員長)

坂根千歳障がい学生支援コーディネーター(元県立高校長・障がい学生支援委員会)

概 要：

本キャンパスでは、他の委員会と協働して学内研修会を企画・実施している。今年度も昨年度と同様、障がい学生支援委員会と共催で、多様化する入学生や在學生に適切な学修支援ができるよう、障がいに関する国の法令や施策、全国的な動向を基軸とした最新情報を共有する研修会を開催した。また本研修会については、松江キャンパスにおける障がい学生の支援の具体的な方法を学ぶことを目的としているため、教員だけでなく職員も含めたSD・FD研修会とした。

2-(1) 授業評価アンケートの実施報告(人間文化学部)

(1)目的:「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

(2)方法:学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

(3)実施期間:(春学期)令和5年7月18日(火)～8月18日(金)

(秋学期)令和6年1月24日(水)～2月16日(金)

(4)回収率

春学期・秋学期を通じて、授業評価実施率は100%であった。一方、回収率に関しては春学期が66.6%、秋学期が53.4%であった。特に、秋学期は人間文化学部発足以来最低の数値である。また、短期大学部と比べて回収率が低い傾向も続いている。科目ごとの回収率を見てみると、「履修者が多いほど回収率が低い」とも言えないことから、別の要因があると考えられる。

回収率の低さの要因としては、授業評価アンケートの目的・意図が授業内で周知されていない、回答時間が授業内で確保されていないこと等が想定される。回収率を向上させるためには、これらの二点を徹底することがまずは必要だろう。併せて想定されるのは、(実態がどうかは別にして)アンケートに回答しても授業が改善されないという感覚を学生がもっている可能性である。アンケート結果を授業改善に実際に活かすことなど、運用上の課題が大きいと思われる。

(5)結果および考察

人間文化学部全体の授業評価において、総合評価として「非常に満足している」と「満足している」を合計すると、春学期88.7%、秋学期89.6%であり、全体として授業満足度は高いと言える。ただし、上記のように回収率は低調であるため、「アンケートに回答する学生＝授業に積極的な学生」と仮定すると、実際の満足度はより低いと思われる。

今年度の授業評価において、過去には見られなかった傾向として二点を挙げることができる。

一点目は、低学年ほど満足度が低くなっていることである。後述する相関分析の結果を勘案すると、授業内容を理解できないことが満足度の低下につながっていると推測されることから、学生の理解度に応じて授業内容を調整するなどの対応が今後求められるようになると考えられる。

二点目は、相関分析の結果において、「B-3 知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった」「C-4 説明は分かりやすかったか」の二項目が、総合評価と強い正の相関を示していたことである。つまり、学生は「内容の興味深さ」や「説明の分かりやすさ」を授業に求めているということである。また、保育教育学科においては、「C-3 学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた」の項目が、総合評価と強い正の相関を示していたことである。こうした学科共通あるいは特有の傾向は、授業改善を目指すにあたって貴重な情報となるように思われる。ただし、具体的な授業改善を進めるためには他の教員の授業から学ぶ機会が必須である。相互の授業見学を復活させるなどの取り組みが求められるのではないだろうか。

表1 アンケートの回収率(令和3～5年度)

	受講者数	回収数	回収率(%)
令和5年度 秋学期	3938	2103	53.4
令和5年度 春学期	4538	3021	66.6
令和4年度 秋学期	3871	2367	61.1
令和4年度 春学期	4711	2771	58.8
令和3年度 秋学期	3716	2586	69.6
令和3年度 春学期	4982	3087	62.0

表2 各評価項目の平均点数

項目	A1	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	C5	D
内容	自習	授業内容について			授業方法について					総合
	授業時間(15分以内)の平均)	授業内容が自分の水準に合った内容であった	授業を教わる内容の分量は適切であった	授業を教わる内容の分量は適切であった	知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった	準備がよくされていて熱意が感じられた	対面授業における板書、OVR視覚機器、配布資料などが有効に使われていた	学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた	説明は分かりやすかった	シラバスで説明される授業の目的や達成目標等を達成できたと思うか
学部全体										
平均(秋)	1.42	2.33	2.18	3.25	3.50	3.46	3.33	3.39	3.42	3.48
平均(春)	1.34	2.32	2.19	3.19	3.47	3.38	3.29	3.34	3.36	3.43
1年										
平均(秋)	1.34	2.34	2.18	3.19	3.45	3.42	3.21	3.30	3.35	3.41
平均(春)	1.37	2.35	2.19	3.15	3.45	3.36	3.22	3.31	3.38	3.41
2年										
平均(秋)	1.47	2.37	2.17	3.25	3.53	3.47	3.41	3.46	3.48	3.50
平均(春)	1.28	2.28	2.19	3.14	3.47	3.37	3.23	3.28	3.27	3.38
3年										
平均(秋)	1.49	2.30	2.17	3.37	3.54	3.48	3.45	3.45	3.47	3.56
平均(春)	1.37	2.37	2.19	3.29	3.47	3.36	3.41	3.40	3.38	3.48
4年										
平均(秋)	1.45	2.18	2.25	3.34	3.64	3.61	3.48	3.43	3.53	3.56
平均(春)	1.25	2.12	2.10	3.41	3.61	3.61	3.57	3.69	3.61	3.73
基礎科目										
平均(秋)	1.24	2.32	2.12	3.08	3.39	3.42	3.23	3.31	3.34	3.36
平均(春)	1.27	2.35	2.19	3.11	3.42	3.24	3.29	3.26	3.35	3.40
専門科目										
平均(秋)	1.48	2.34	2.20	3.32	3.54	3.47	3.37	3.41	3.45	3.52
平均(春)	1.36	2.31	2.18	3.23	3.49	3.44	3.29	3.38	3.36	3.45

保育教育 全体										
平均(秋)	1.27	2.26	2.18	3.25	3.48	3.46	3.29	3.35	3.45	3.46
平均(春)	1.23	2.28	2.19	3.17	3.39	3.32	3.24	3.29	3.39	3.42
保育教育 基礎										
平均(秋)	1.00	2.36	2.12	2.96	3.35	3.38	3.00	3.14	3.33	3.22
平均(春)	1.13	2.47	2.26	3.09	3.33	3.18	3.12	3.10	3.38	3.33
保育教育 専門										
平均(秋)	1.35	2.23	2.20	3.33	3.52	3.48	3.38	3.41	3.49	3.53
平均(春)	1.26	2.22	2.17	3.20	3.42	3.37	3.28	3.35	3.40	3.45
地域文化 全体										
平均(秋)	1.54	2.40	2.18	3.26	3.51	3.45	3.37	3.42	3.40	3.49
平均(春)	1.40	2.35	2.18	3.21	3.51	3.41	3.32	3.37	3.34	3.44
地域文化 基礎										
平均(秋)	1.39	2.30	2.13	3.16	3.43	3.45	3.39	3.43	3.34	3.45
平均(春)	1.33	2.30	2.16	3.13	3.46	3.26	3.36	3.32	3.34	3.43
地域文化 専門										
平均(秋)	1.60	2.44	2.19	3.30	3.55	3.45	3.36	3.41	3.42	3.51
平均(春)	1.44	2.38	2.19	3.25	3.53	3.49	3.30	3.39	3.34	3.45

表3 各選択肢の番号と点数化について

選択肢番号	1	2	3	4	5
選択肢の基準	プラス 評価	ややプラス 評価	ふつう	ややマイナス 評価	マイナス 評価
点数	4	3	2	1	0

図1 項目D(総合評価)の選択肢別割合

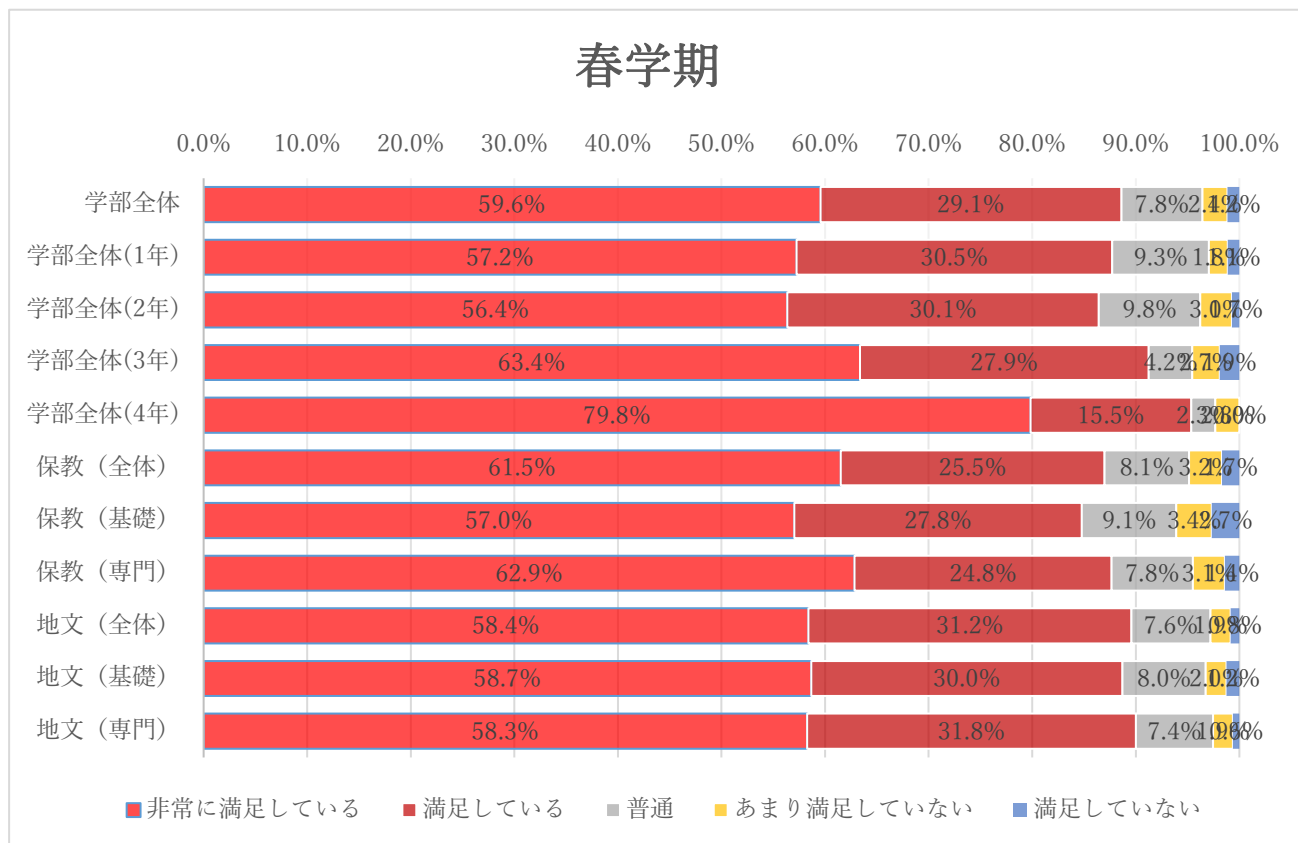
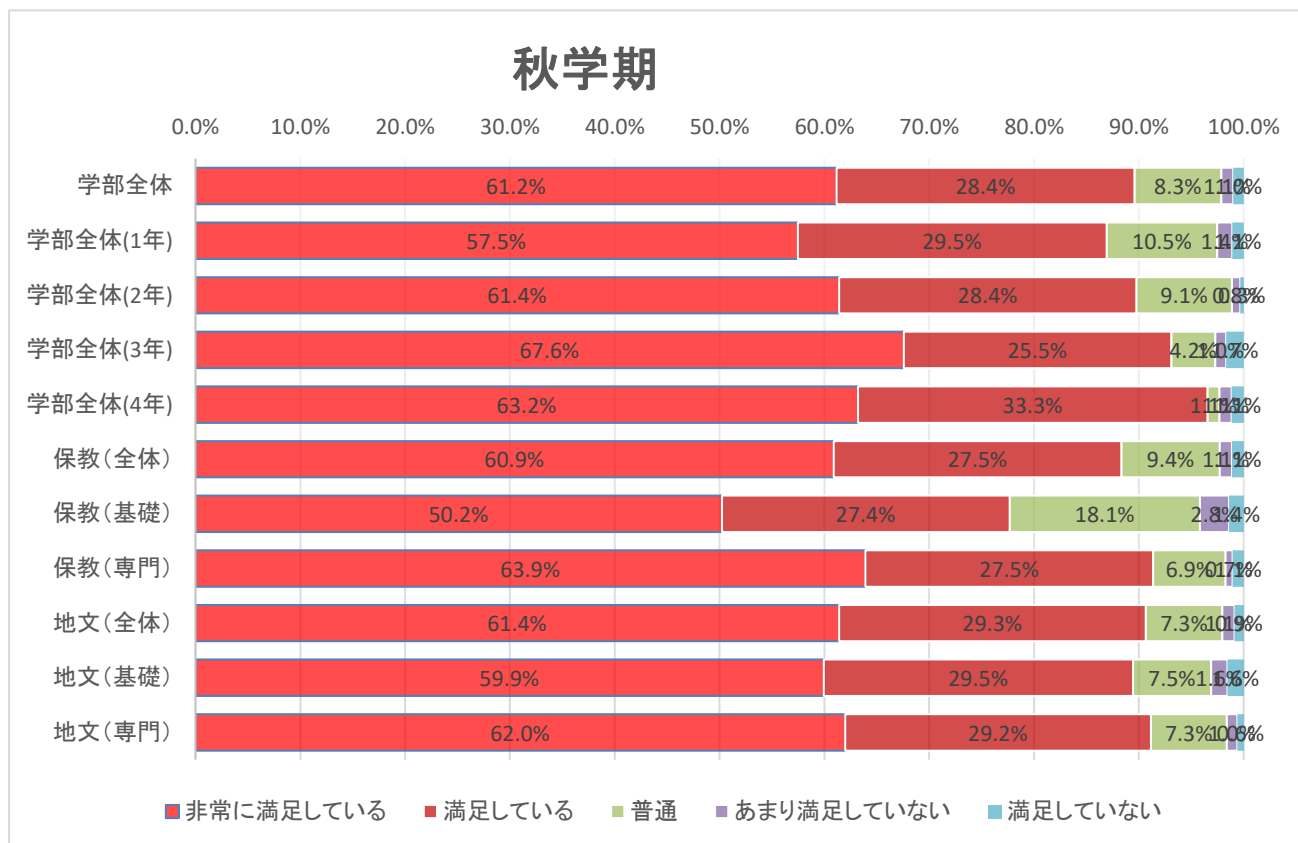
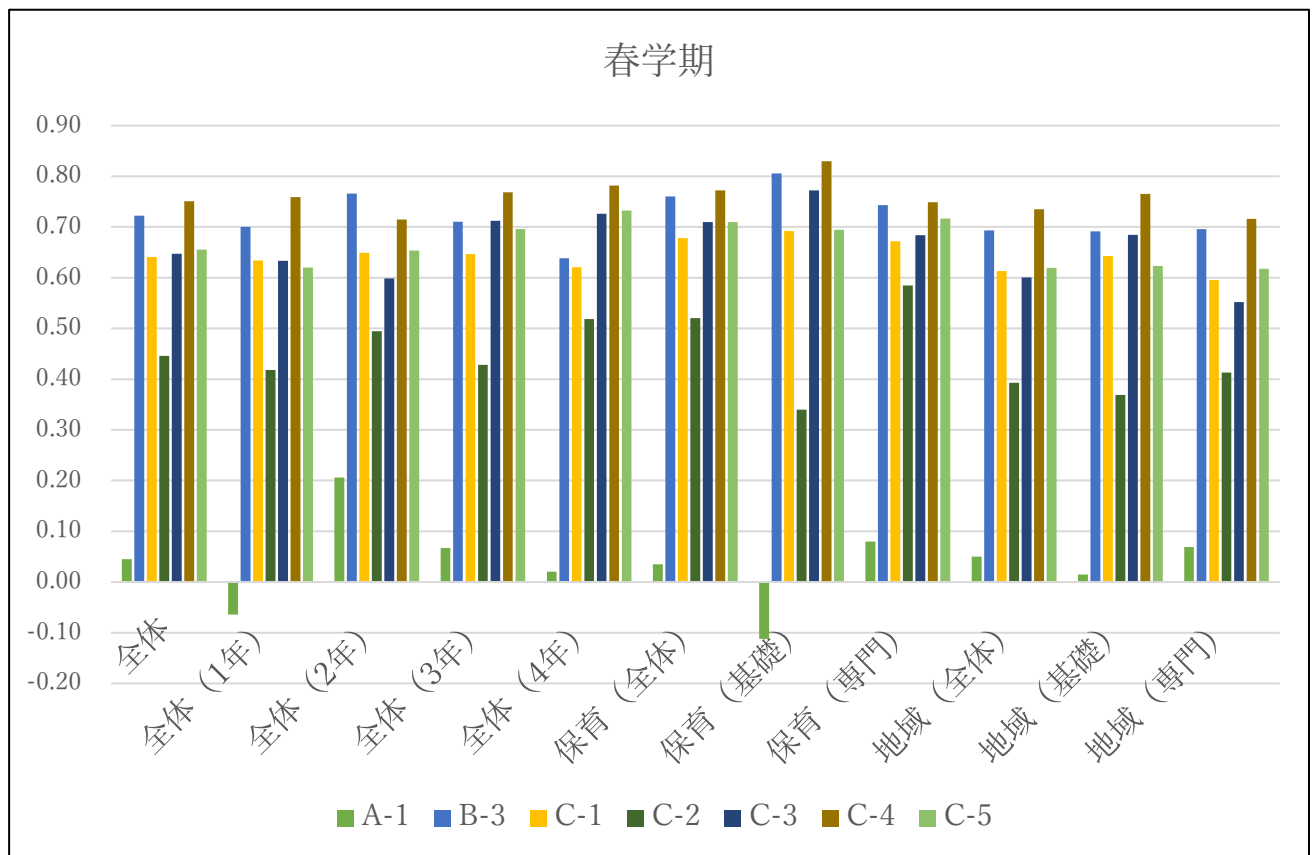
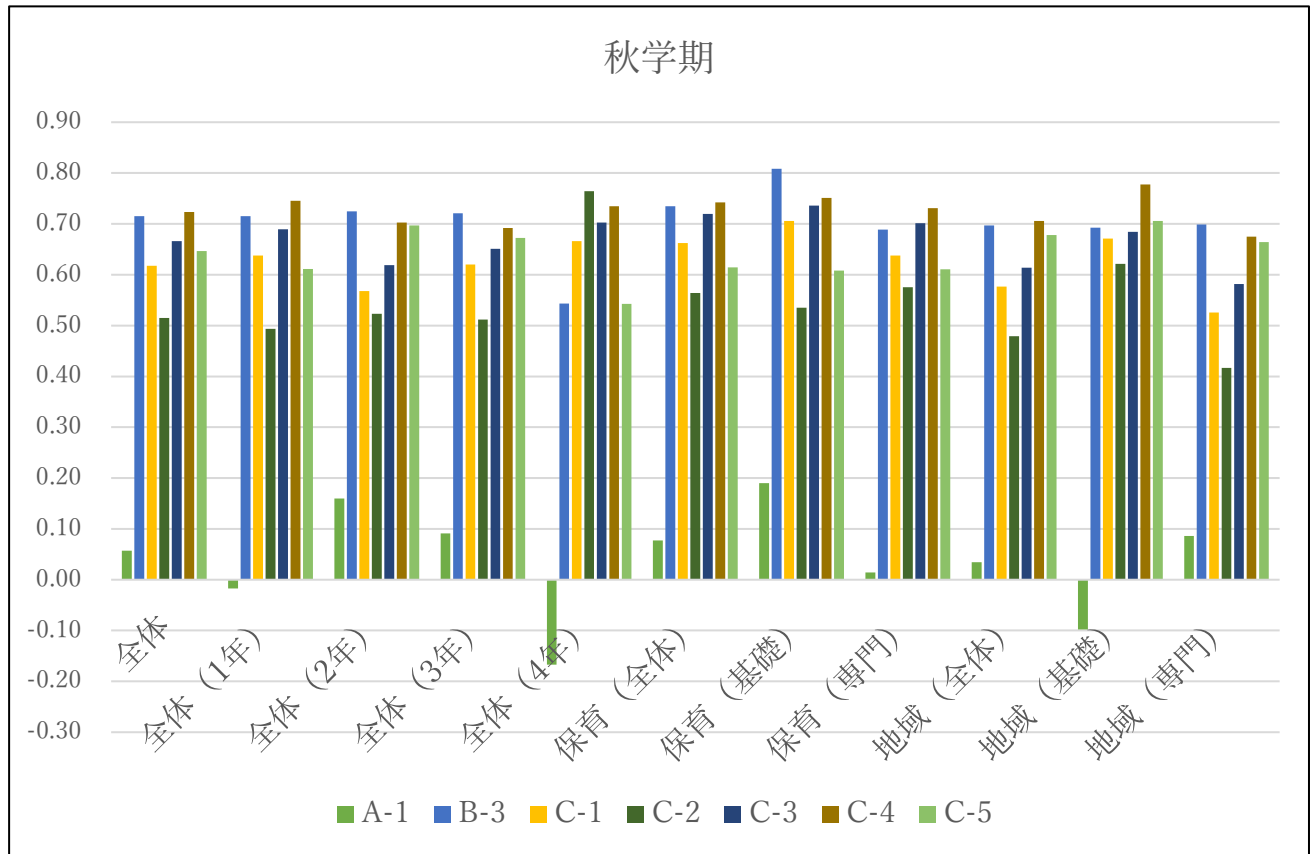


図2 項目 D(総合評価)と各項目の相関関係



2-(2)授業評価アンケートの実施報告(短期大学部)

(1)目的:「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

(2)方法:学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

(3)実施期間:(春学期)令和5年7月18日(火)~8月18日(金)

(秋学期)令和6年1月24日(水)~2月16日(金)

(4)回収率

短期大学部の授業評価アンケートの回収率は、表1の通り、春学期76.9%、秋学期72.8%であった。昨年度(春学期78.5%、秋学期76.0%)よりいずれも僅かだが減少している。その理由として、昨年度遠隔授業から原則対面授業に戻ったことと、例年以上にFD委員会からのアナウンスが重視されたことから回収率が大幅に増加したが、今年度は、その効果も少し薄れたと考えられる。

今後、回収率を100%に近づけていくためには、まずは授業評価アンケートの意義をより一層丁寧に学生に対して直接周知することに加えて、ポータル画面上で担当授業の回収率をリアルタイムで確認できるようにして、未回答学生のフォローを可能にするなど、システム自体を再考することが考えられる。

(5)結果および考察

ア 評価実施授業全体としての結果

各評価項目についての平均値は表2の通りとなった。平均値は、選択肢を表3のように数値化し、合計を有効データ数(データ数-無記入数)で割った数値である。また、項目D(総合評価)に占める各選択肢の割合を集計したのが図1である。

短期大学部全体で授業に対して満足している割合(項目Dに占める「非常に満足している」と「満足している」の割合の合計)は、春学期は90.2%、秋学期は93.7%であった。学科別の評価(全体)では、春学期は保育学科91.0%、文化情報学科88.9%、秋学期は保育学科94.0%、総合文化学科92.8%であり、短期大学部全体、学科ごとのいずれも高い値を示している。

科目分類別に満足している割合を見ると、基礎科目は、春学期では保育学科80.0%、文化情報学科84.5%、秋学期では保育学科90.7%、文化情報学科92.6%であった。専門科目は、春学期では保育学科92.6%、文化情報学科91.5%、秋学期では保育学科94.7%、文化情報学科93.6%であった。春学期の基礎科目が両学科とも85%以下と、全体の中では少し低い数値であるが、全体的には両学科とも、ほとんどが90%以上で高い水準にある。

昨年度は、オンライン授業が中心であった令和3年度と比して2割ほど高い数値となったが、今年度も昨年度以上に高い数値を示した。その理由として、今年度も年間を通じてほぼ対面授業を維持できたことと、新学科としての文化情報学科の新しい科目への期待と意欲が学生にあることが考えられる。

イ 項目D(総合評価)と他の評価項目との相関関係

項目D(総合評価)と関わりが大きい評価項目を明らかにするため、各設問との相関係数を

算出した(図2)。短大全体としては、C-4(説明が分かりやすかった)、C-3(学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた)、B-3(知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった)と総合評価の間に比較的強い正の相関が見られた。特に C-4 は、学科別、科目分類別の統計でも、多くの区分で高い数値を示しており、とりわけ相関が強いといえる。

なお、A-1(授業外学習に時間をかけた)については、今回も総合評価と関連性がみられなかった。これは、授業の満足が必ずしも学生自身の自発的な学習につながっていないことを示している。四大に比べて短大部における空きコマの少ない時間割や、実習やフィールドワークの課題が多い点など、カリキュラムの特徴が関連している可能性があると思われる。この項目の取り扱いについては今後の検討が改めて必要と考えられる。

表1 アンケートの回収率(令和3~5年度の回収率)

	学部	受講者数	回収数	回収率(%)
R05 秋	短期大学部	1795	1306	72.8
R05 春	短期大学部	1918	1474	76.9
R04 秋	短期大学部	1696	1289	76.0
R04 春	短期大学部	1997	1568	78.5
R03 秋	短期大学部	1746	1078	61.7
R03 春	短期大学部	2122	1570	73.9

表2 各評価項目における平均値

項目	A1	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	C5	D
内容	自習	授業内容について			授業方法について					総合
	授業外学習(習得など)に時間をかけた(適量)の平均値	自分の水準に適した授業内容であった	授業を教わる内容の量は適切であった	知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容であった	準備がよくされていて熱意が感じられた	対面授業における板書、OAV視聴機器の配属などが有効に使われていた	学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた	説明が分かりやすかった	シラバスで明される授業の目的や達成目標を達成できたと思ふか	総合的に評価してこの授業に満足している
短大全体										
平均(秋)	1.30	2.25	2.16	3.37	3.61	3.54	3.46	3.46	3.60	3.60
平均(春)	1.23	2.39	2.27	3.25	3.53	3.44	3.26	3.30	3.50	3.47
基礎科目										
平均(秋)	1.12	2.34	2.22	3.21	3.57	3.56	3.34	3.35	3.53	3.50
平均(春)	1.00	2.56	2.38	3.11	3.49	3.19	3.16	3.16	3.42	3.29
専門科目										
平均(秋)	1.36	2.22	2.13	3.43	3.62	3.53	3.50	3.50	3.63	3.64
平均(春)	1.30	2.34	2.23	3.29	3.54	3.51	3.29	3.34	3.53	3.52
保育 全体										
平均(秋)	1.25	2.21	2.14	3.39	3.62	3.53	3.45	3.48	3.61	3.61

平均(春)	1.17	2.38	2.28	3.27	3.59	3.46	3.28	3.34	3.54	3.52
保育 基礎										
平均(秋)	0.97	2.37	2.19	3.17	3.62	3.58	3.30	3.36	3.56	3.47
平均(春)	0.95	2.58	2.40	3.16	3.45	2.82	3.22	3.26	3.30	3.26
保育 専門										
平均(秋)	1.31	2.17	2.12	3.44	3.63	3.51	3.48	3.51	3.62	3.64
平均(春)	1.21	2.35	2.26	3.28	3.61	3.55	3.29	3.35	3.58	3.56
文化情報 全体										
平均(秋)	1.42	2.36	2.21	3.33	3.56	3.57	3.48	3.41	3.58	3.59
平均(春)	1.30	2.41	2.25	3.23	3.45	3.41	3.23	3.25	3.45	3.40
総合文化 基礎										
平均(秋)	1.26	2.32	2.25	3.24	3.52	3.54	3.38	3.34	3.50	3.53
平均(春)	1.03	2.54	2.38	3.08	3.51	3.37	3.13	3.11	3.41	3.30
総合文化 専門										
平均(秋)	1.59	2.41	2.17	3.41	3.59	3.61	3.57	3.47	3.66	3.64
平均(春)	1.46	2.34	2.16	3.31	3.41	3.43	3.29	3.33	3.43	3.46

表3 各選択肢の番号と点数化について

選択肢	1	2	3	4	5
選択肢の基準	プラス 評価	ややプラス 評価	ふつう	ややマイナス 評価	マイナス 評価
点数	4	3	2	1	0

図1 項目D(総合評価)の選択肢別割合(上図:秋学期、下図:春学期)

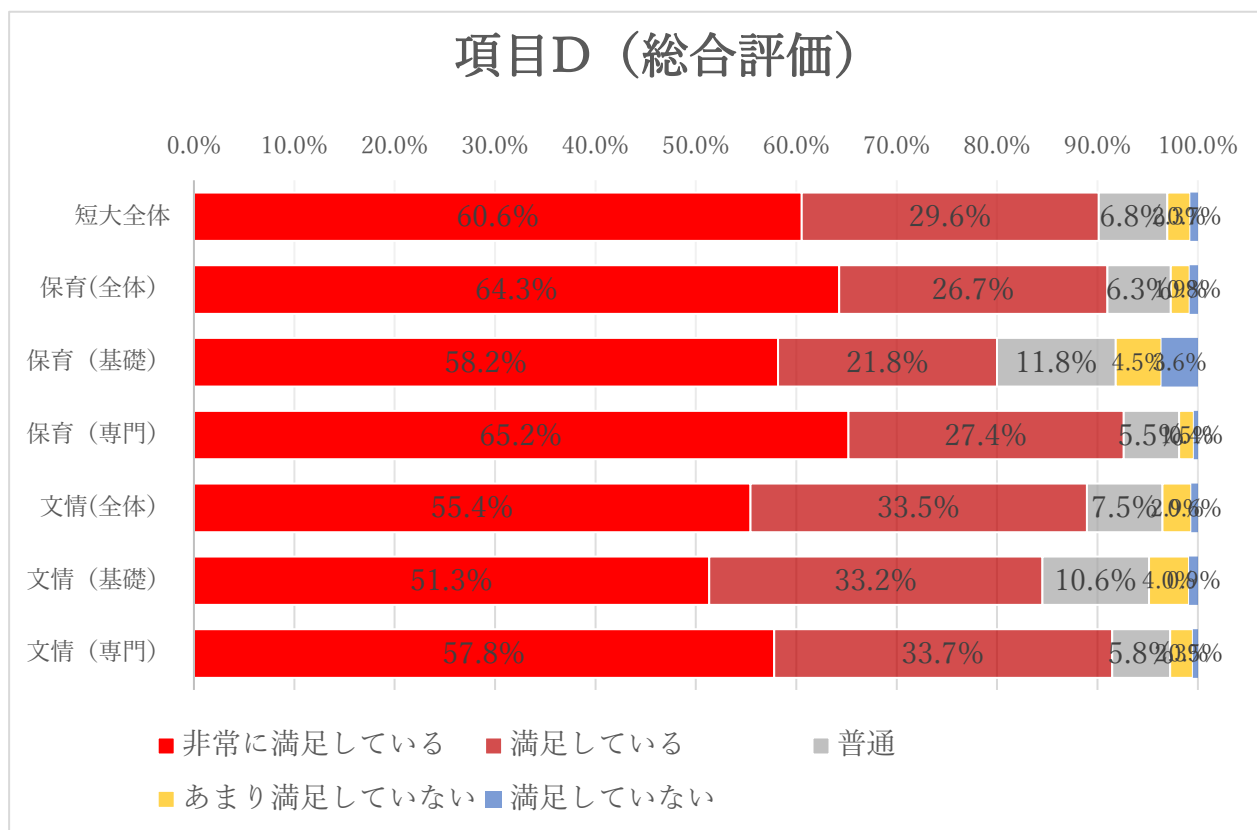
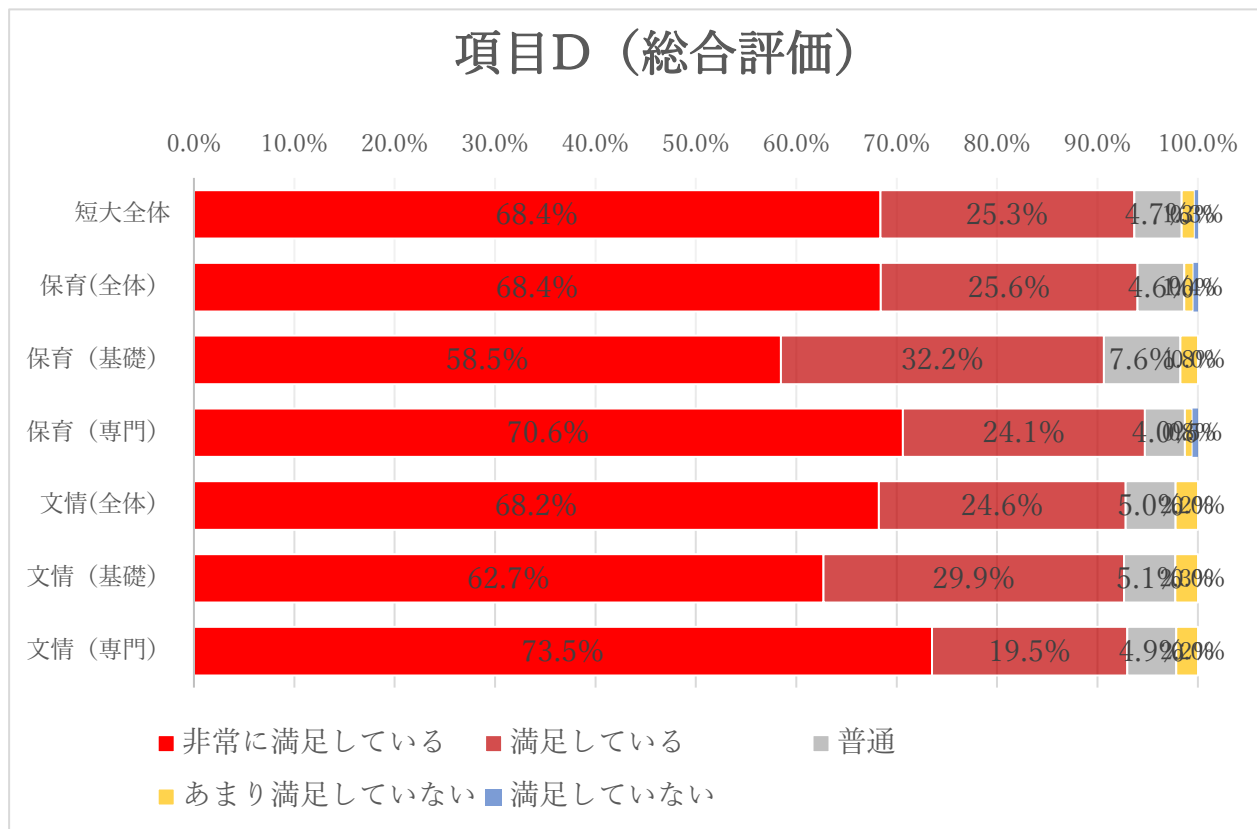
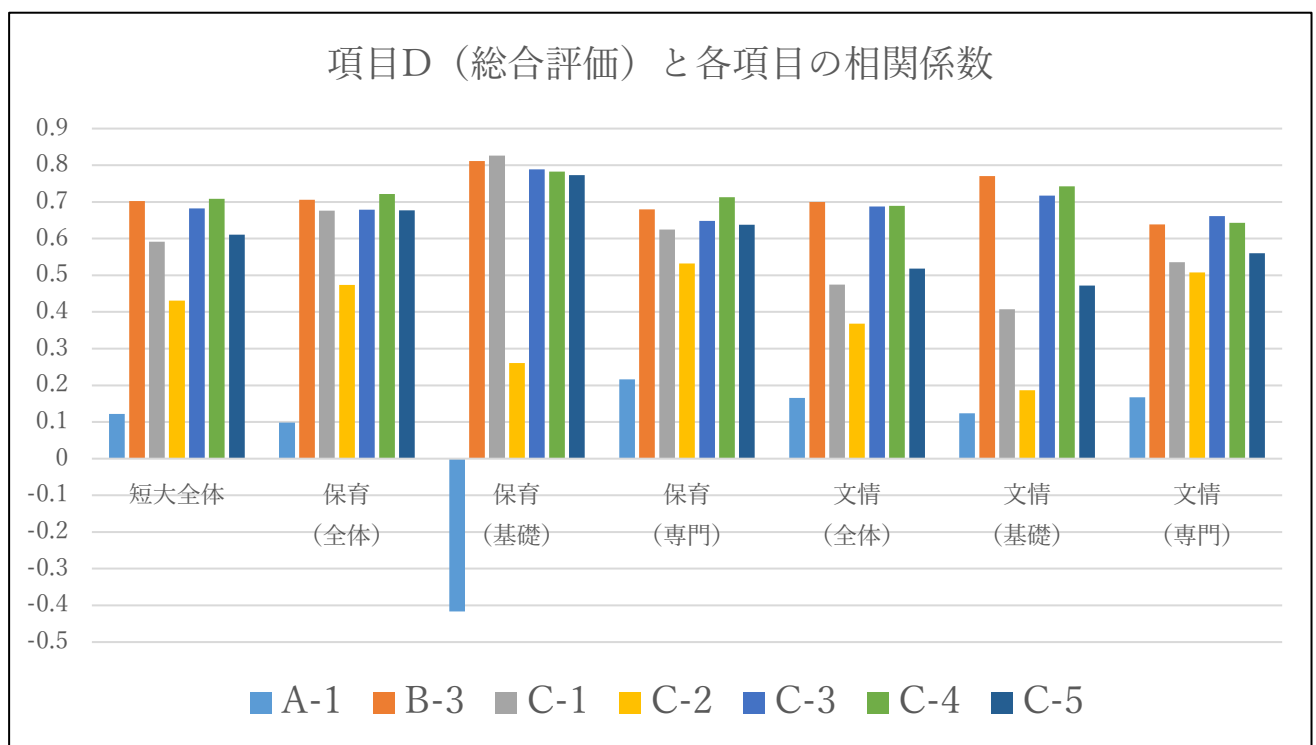
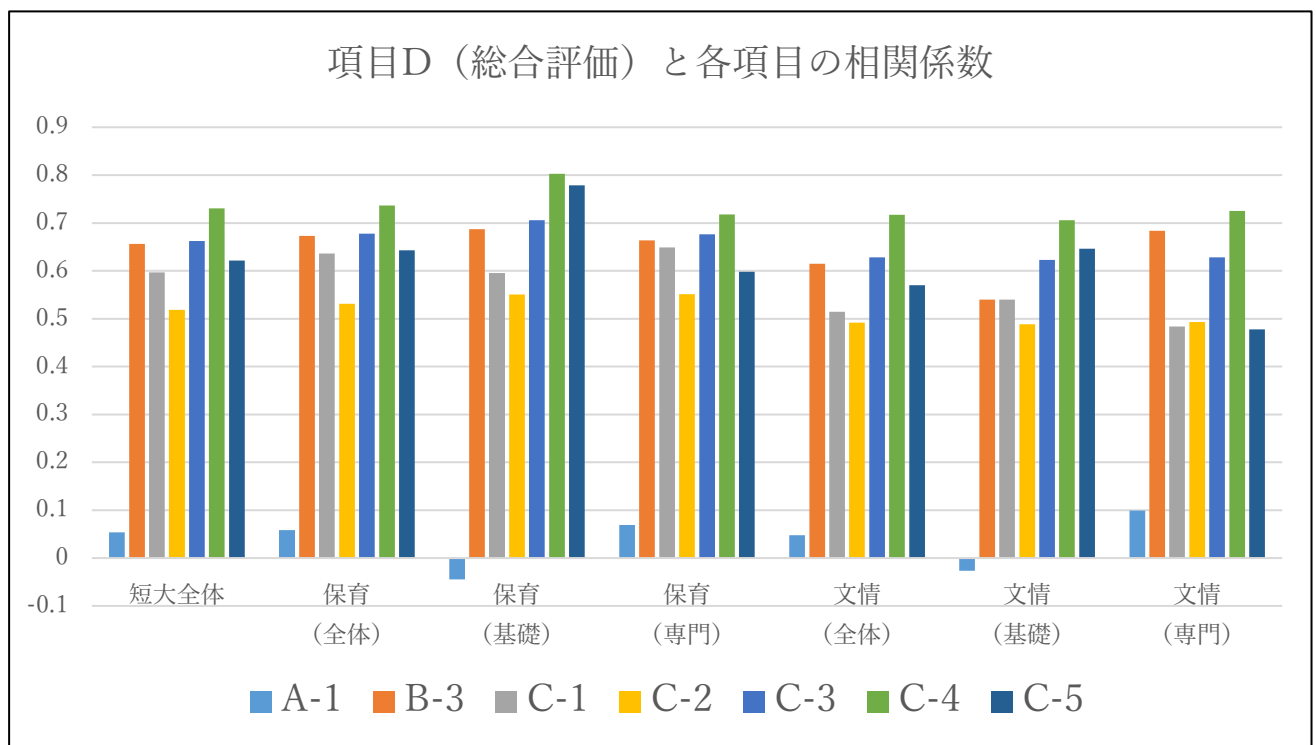


図2 項目D(総合評価)と各項目の相関関係(上図:秋学期、下図:春学期)



3. 松江キャンパス独自の取り組み

(1)学外者の第三者の意見聴取(2024年1月)

FD活動に関しては令和3年度から学外の第三者の意見聴取を行ってきたが、本年度は昨年度に引き続き、島根大学教育学部FD戦略センターとの交流の機会を持った。令和6(2024)年1月21日に、小山FD委員長、雪吹学務課長、桶谷学務課主事の3名が島根大学を訪問し、島根大学教育学部FD戦略センター長の縄田裕幸教授と教育学部附属FD戦略センターの野津翔平氏と意見交換を行った。

島根大学教育学部でのFD活動は、2004年に授業公開の取り組みからスタートし、受講公開ウィークを設定していつでも授業を相互参観できることを実施してきた経緯がある。その中で、現在、島根大学教育学部のFD活動として実施していることは主に3つで、1つはFD研修会を年間12回、1回あたり30分程度、教授会の前の時間に設定して開催し、教員の参加率を上げていること、2つは新任の着任者を対象にした大学教員研修の実施で、島根大学教育学部附属学校に出向き、実習現場での業務経験を積む研修、3つはカリキュラムマップ検討会を各専攻別に実施し、授業の質管理や免許取得の意味の確認などの教員同士の対話ツールとしても機能させていること、などのFD活動の取り組み状況を聞かせていただいた。また、学生を巻き込んだFDの取り組みとして、各学位課程の教育改善に学生を参加させる「学生教育改善委員会」の整備と、3年生6~7人が1000時間ボランティアの対象活動として参加している実態も知った。一方、島根大学教育学部でのFD活動の課題としては、教職員が忙しく、FD活動にリソースを割く時間とマンパワーの余裕がないこと、学生の授業評価アンケートをスマホで読み取り回答させているが、その回収率が低いことなど、本学FD活動での課題点と共通する悩みも聞かれた。島根大学教育学部のFD活動は本学の取り組みでも参考になる話であり、意見交換の機会を設けた意義を感じた。

(2)授業評価アンケート実施に対するWebシステムの活用

本キャンパスでは、学生が授業評価アンケートの回答を「UNIPA」システムを利用している。また教員が各授業のアンケート結果を参照する際にも利用している。このことで、回答学生が時間の制約を受けずにアンケートに記入できる点と、アンケート集計を機械的に単純集計が出来るといった利点が挙げられる。

また専門業者によるデータ分析の結果を基にFD委員会で「アンケート調査概要および分析」を作成し、全授業担当者に配布している。そのことによって、学科別の比較や、教員が担当科目の結果について学科平均等と項目別に比較することを可能とし、授業改善に活用している。

4. 松江キャンパスFD委員会の今後の課題

2018年度に学部・学科の大幅な改編が行われた松江キャンパスにおいて、2023年度は、新しい組織的FD・SD活動が始まって6年目であった。2020年1月に日本でも新型コロナウイルス患者が発生し、3年ほど新型コロナウイルス感染抑制を考慮しつつのFD活動を余儀なくされた。しかし2023年5月に新型コロナウイルスが5類感染症に変更されたことで、授業の実施形態はコロナ前の状態を取り戻しつつも、学生や教職員の間でもコロナ感染症やインフルエンザが広がり、出席停止になるケースが頻発する1年であった。次年度は、さらにコロナ以前の状況に戻ることが予想されるが、今後の課題について下記の項目を挙げる。

(1)FD 研修会の研修内容・研修方法の検討について

2 学部、4 学科が共存する本キャンパスにおいて、FD 研修会が参加者の専門性によって有益性に偏りが生じるという課題が近年確認されていた。そのため、テーマ別の研修会を数回に分けて実施し、それぞれの教員が関心のある研修会を選択して参加する方法を計画していた。ここ数年は、新型コロナウイルス対応によって実現していないが、来年度以降は、教員の専門や授業形態別の小単位の研修会を実施することについて検討を進めたい。

(2)授業評価アンケートの実施と教員フィードバックの回答率について

授業評価の実施率は 100%の一方、学生の回収率の低下傾向が見られる。アンケートの目的・意図を授業内で周知する、回答時間を授業内で確保するといった対策が必要だと考えられる。教員からのフィードバック率は、春学期は四大部 100%、短大部 100%と、今年度初めてすべての教員がフィードバックを実施したが、そのことは秋学期授業評価アンケートの回収率の向上に必ずしも寄与していない。実際の授業改善に活かすなど、フィードバックに留まらない運用が必要だと考えられる。改めて授業評価への回答の意義を直接担当教員が学生に周知すること、アンケート実施の声かけ以上に、アンケート実施のシステム自体の再考が必要であること、授業評価を拒否する一定の学生の意思も検討する、等々の必要があると思われる。

(3)授業公開について

過去 3 年間、新型コロナウイルス感染拡大予防のために松江キャンパスでも授業公開を実施しない状況であったため、今年度の FD 委員会では授業公開について今後どのように進めていくべきかの問題提起で終わり、授業公開自体も実施できていない。授業公開の実施は、大学の中期計画でも位置づいていることであるため、次年度は教員や学生にとっても有意義になるような授業公開や参観方法を FD 委員会で話し合いながら、具体的な実施について検討・計画していきたい。

(4)FD 研修会の充実について

今年度末の副学長・人間文化学部長・短期大学部長・事務部長と各専門委員会委員長との意見交換会の中で、次年度は松江キャンパス会議と学科会議を第 2 水曜日に実施するが、キャンパス会議のあとの 30 分～1 時間を毎月、FD 研修会の時間として枠を確保し、必要がある時に FD 研修会や他の委員会と共催の研修会などを実施することが伝えられた。FD 研修会や授業評価アンケートと教員フィードバック、授業公開関連もこの時間をうまく活用しながら、各教員にとっても合理的かつ出席率が上がるような FD 活動を実施していきたい。

【参考】

FD委員会年間スケジュール

委員会の定期開催日程：第3 水曜日

春学期		秋学期	
月	項目	月	項目
4	<ul style="list-style-type: none"> ●前年度秋学期授業評価アンケートのフィードバック率の報告 ●今年度当初予算の確認 ●FD 委員内の業務分担(授業アンケート関係、学内研修関係、FD 活動報告書作成) 	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼 (9/22～10/6) ● 春学期授業評価アンケートのフィードバック率の報告
5	<ul style="list-style-type: none"> ●学内 FD 研修会の計画 ●今年度春学期授業評価アンケートの実施日程の決定 	11	
6	<ul style="list-style-type: none"> ●学内 FD 研修会の研修案の決定 (研修テーマ・実施日時) 	12	<ul style="list-style-type: none"> ●秋学期授業評価アンケートの日程案の決定 ●次年度 FD 計画・今年度業務実績報告
7	<ul style="list-style-type: none"> ●春学期授業評価アンケートの学生回答 (7/18～8/18) ●学内 FD 研修会の実施 (7/12 小山優子「科研費申請の最新動向」、7/20 倉橋徹「生成 AI の現状と課題」)【年 1 回以上実施】 	1	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋学期授業評価アンケートの学生回答 (1 月 4 週～2 月 3 週)
8	<ul style="list-style-type: none"> ● 春学期授業評価アンケートの集計・とりまとめ (事務) 	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 学期授業評価アンケートの集計・とりまとめ (事務) ● 春学期授業評価アンケート報告書の作成 (FD 委員)
9	<ul style="list-style-type: none"> ●春学期授業評価アンケート報告書の作成 (FD 委員) ●授業担当教員へ授業評アンケートの結果を配布 ●授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼 (9/22～10/6) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業担当教員へフィードバックレポートの回答依頼 (3 月 3 週～4 月 1 週) ● 今年度 FD 委員会活動報告書の作成 ● 今年度 FD 予算の執行 ● 障がい学生支援委員会共催研修会 3 月「障がい学生の支援について」

※この他にも、他委員会主催の研修会を FD 研修会との共催の形で実施

※日付については、令和 5 年度実績を記入